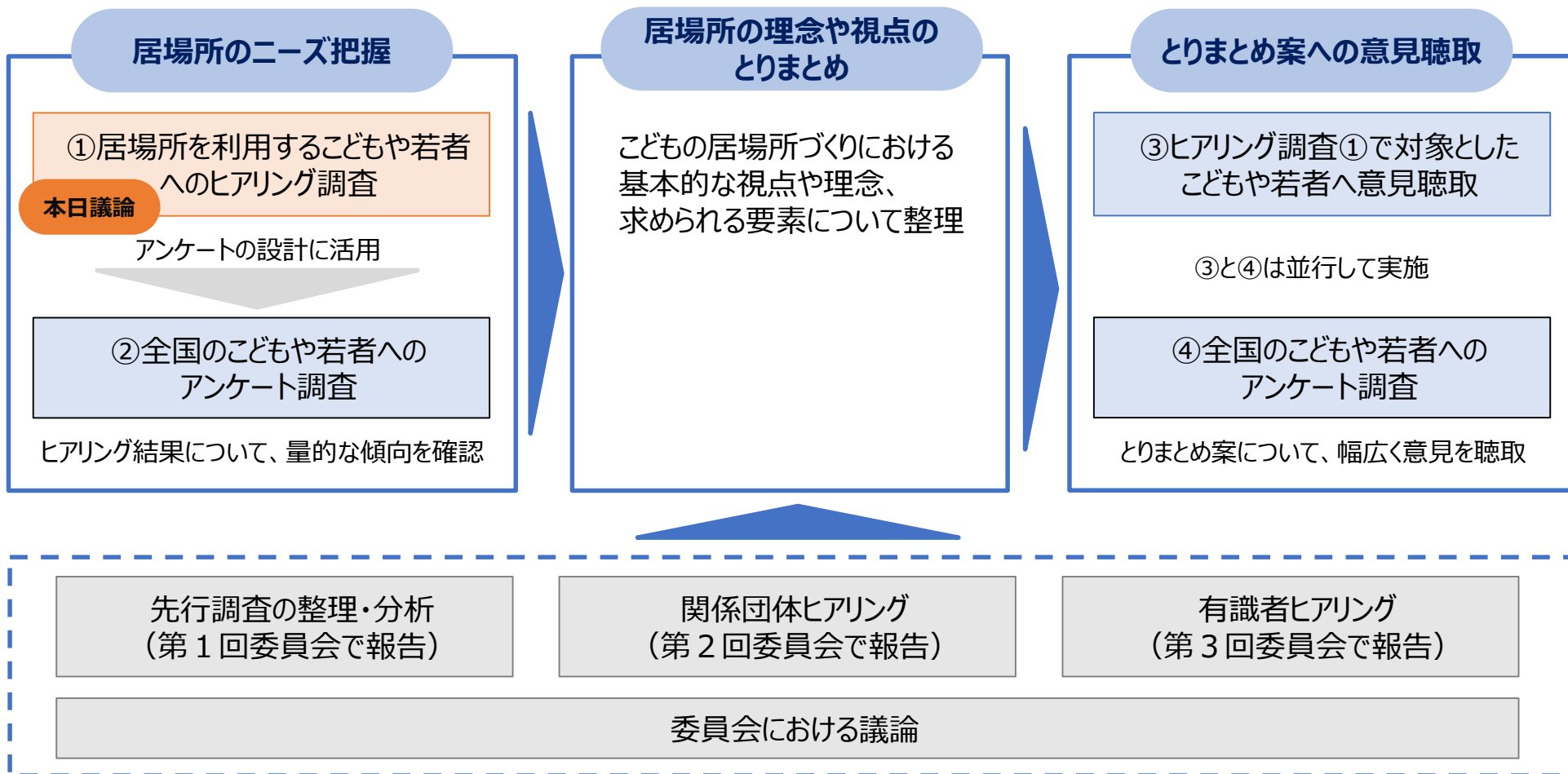


こどもや若者へのヒアリングの調査設計（案）

1. 本事業における子どもや若者への調査の全体像

- 居場所を利用する子どもや若者へのヒアリング調査の位置づけについて、子どもや若者の実態や課題把握を主目的とするものではなく、あくまで、居場所の基本的な視点や理念に、子どもや若者の意見を反映すること目的とする。
- 本日は、①居場所を利用する子どもや若者へのヒアリング調査について、ご検討いただきたい。



2. 調査概要（案）

(1)目的

- 居場所の基本的な視点や理念のとりまとめに際して、子どもや若者が必要とする居場所や、子どもや若者の視点に立った居場所がどのような居場所か、子どもや若者自身の意見を踏まえて検討するための基礎資料を得る。
- 居場所を利用することもや若者から、居場所のニーズを把握する。

(2)調査対象

- 居場所を利用することもや若者（計30名程度）
- 6～18歳を主な対象と想定するが、居場所を利用する未就学児や18歳以上の若者が対象に含まれることも想定。
- 10歳未満へのヒアリングの場合は、実施が難しいことも想定されるため、こどもと日頃接する大人（居場所の運営スタッフ等）へのヒアリングで代替するとともに、10歳以上のこどもに対して、10歳未満のこどもの様子をヒアリングする。
※後続のアンケート調査では、上記の内容をもとに、10歳未満も対象として、選択肢形式を基本としたアンケートを実施。

(3)調査対象となる居場所の選定方法

- 先行調査の整理・分析、関係団体ヒアリング等で把握された居場所、又は委員推薦の居場所から選定。（計6箇所程度）
- 対象となる居場所について、所在する地域の人口規模の区分（10万人未満、10万人以上30万人未満、30万人以上）、利用者の年齢層の区分（6～12歳、12～15歳、15歳以上）をいずれも含むように選定。

(4)調査対象者の選定方法

- 当日居場所を利用している利用者を対象とし、人数が多い場合はくじ引き等で決定する。（1カ所につき3～8名程度）
- 複数の年齢層が利用する居場所の場合は、利用者を年齢層の区分で分けた上で、区分内で上記方法により選定いただく。

(5)調査実施者（インタビュアー）

- 居場所の運営スタッフ等に依頼することを基本とし、事務局は同席することを想定。
- 子どもや若者の要望で、事務局の同席が難しい場合は、調査の模様をビデオに録画又は録音いただく。
- 居場所の運営スタッフ等から、事務局がインタビュアーとなることの希望があった場合のみ、事務局が担当する。

3. 調査概要（案）

(6)調査方法

- 居場所の運営スタッフ等と相談の上、居場所の特性を踏まえ、以下のいずれかを採用。
- 対面（訪問）でのインタビューを基本とし、子どもや若者より要望があった場合のみ、オンラインで実施。
- 調査時間は、30分程度（15～45分）を基本とし、調査方法によって変更。

① 子どもや若者が参加する運営会議等での議論	• 子どもや若者が参加する運営会議やミーティング等を日頃から開催している場合、ヒアリング項目を会議の議題として設定し、自由に議論していただく。
② グループインタビュー	• お互いに顔見知りの子ども複数人（2～5名程度）に対し、インタビューを実施。
③ 個別インタビュー	• 個別にインタビューを実施。

(7)その他

- 事務局がヒアリングに同席する場合、子どもや若者の緊張感を軽減することや、子どもや若者の居場所での過ごし方をあらかじめ把握することを目的として、協力先の居場所にお許しいただける範囲で、ヒアリングの前に、事務局が活動に参加する。
- 10歳未満へのヒアリングを子どもと日頃接する大人（居場所の運営スタッフ等）へのヒアリングで代替する場合も、可能な限り、事務局が活動に参加することを通して、10歳未満のこどもの利用状況を事務局が確認する。

（調査対象者の選定方法）

- 居場所によっては、当日まで、どの子どもや若者が来るか分からず、事前に、無作為抽出することが困難な状況も想定される。そのため、今回は、運営スタッフ等から、子どもや若者に対して、ヒアリング調査の実施を周知頂いた上で、当日その居場所に来た子どもや若者を対象としてはどうか。また、当日、人数が多い場合のみ、くじ引き等の方法で対象者を選定してはどうか。

（インタビュー）

- 居場所の運営スタッフ等が子どもや若者にヒアリングすることで、調査対象者の安心感を担保できる一方で、運営スタッフ等に気を遣って言えないこともあると想定される。ただ、関係団体ヒアリングでは、運営スタッフ等がヒアリングした方が良いのではないかという意見も多かったことを踏まえ、今回は、調査対象者の安心感を担保することを優先してはどうか。
- 後続のアンケート調査において、匿名性を担保した上で、選択肢のほかに自由回答欄を用意することで、子どもや若者が自由に意見できる機会を確保してはどうか。 ※アンケートの自由回答は、スケジュールの関係上、ヒアリング結果とは別途、分析を行うことを想定。

4. 調査の流れ

- 居場所の運営スタッフ等と、個別に事前打合せを実施し、ヒアリング結果の分析や活用イメージ（基本的な視点や理念のとりまとめイメージ）を説明することで、子どもや若者へ聞き取りを行う視点を共有・明確化する。ただ、誘導にならないよう留意する。

STEP 1

- 居場所の運営団体に協力を打診。本事業の背景・趣旨、調査概要について説明。

STEP 2

- 居場所の運営スタッフ等との事前打合せを実施。調査方法等を相談、ヒアリング結果の活用イメージを共有。

（説明・相談内容）

- 本調査の目的、ヒアリング結果の活用イメージ等を説明。
- 調査対象者となる子どもや若者の選定方法、調査方法、調査実施者、事務局の同席可否について相談。
- 子どもや若者への調査説明資料※、同意書等を共有。

※事務局関係者の子どもに、事前に確認してもらい、子どもや若者の年齢や発達段階によらず、理解できる内容となっているかを確認する。

STEP 3

- 居場所の運営スタッフ等から、居場所を利用する子どもや若者に、本調査を周知いただく。

STEP 4

- 当日居場所を利用する子どもや若者を対象とする。利用者が多い場合は、くじ引き等により選定する。
- 当日その場で調査趣旨等を説明し、本人から同意を取得。 ※ヒアリング内容は、後日撤回することが可能。
- 子どもや若者に対するヒアリングの実施。

5. 調査内容

- 以下の質問への回答に対して、「なぜそう思う／するのか」、「どんな意味があるのか」を質問することで、居場所に求められる要素等につながる内容を言語化して回答いただけるようにする。

区分	調査項目	具体的な質問（例）
【A】 居場所の利用状況から、居場所のニーズを間接的に把握する設問	• 居場所における活動内容	<ul style="list-style-type: none"> • ここに来たら、よく何して過ごしていますか？ • ここに来たら、何して過ごすのが好きですか？
	• 居場所の利用頻度、形態等	<ul style="list-style-type: none"> • ここには、何時ごろによく来ますか？ • 何時から来たいですか？いつまで居たいですか？ • ここまでどうやって来ていますか？来るのは大変ですか？
	• 居場所の利用経緯	※こどもや若者にとって回答しづらい内容である可能性が高いため、運営スタッフ等に確認。
	• 居場所の利用前後での変化	<ul style="list-style-type: none"> • ここに来てから、新しく好きになったことや、初めて知ったことはありますか？ ※こどもや若者の心理的变化は、運営スタッフ等に確認。
	• 居場所への要望	<ul style="list-style-type: none"> • ここで起こることで、嫌なことはありますか？ • ここではできないけど、やってみたいことはありますか？
【B】 居場所のニーズを直接的に把握する設問	• 居場所の視点や理念の要素の深掘り	<ul style="list-style-type: none"> • あなたにとって、ホッとするとところ（安心したり、気持ちが落ち着いたりするところ）はどこですか？ • そこは、どんなところですか？
	• 求める居場所	<ul style="list-style-type: none"> • ここや学校、おうちのほかに、よく行くところがありますか？ • ここや学校、おうちのほかに、どんな居場所で過ごしたいですか？それはなぜですか？

5. 調査内容

- こどもや若者の年齢や発達段階、居場所の特性に応じて、運営スタッフ等に、質問方法を調整いただく。半構造化インタビューの形式を想定。
- こどもや若者にとって回答しづらい内容は、運営スタッフ等から聞き取る。
- 言語化することが苦手なこどもや若者の場合には、オープンクエスチョンではなく、運営スタッフ等から、日頃の利用状況を踏まえた選択肢をいくつか提示して、質問していただく。
- 自立援助ホーム等の入居者を対象とする場合は、自立援助ホームだけでなく、他に利用している居場所等も含めて調査する。

6. 調査結果の分析

【分析手順 I】

1. **子どもや若者の語り**（言いどみや繰り返しのみを整えた、実際の発言内容）を、意味ごとのまとまり（1～数文）に切り分ける。
※その際、事務局が恣意的に内容を取捨選択することはなく、実際の発言内容すべてを取り扱う。
2. **発言者の属性**（年齢・利用している居場所）や、どの調査項目に紐づく質問に対する回答かが把握できるような形で、子どもや若者の語りを表に整理する。
※支援者の意見・支援者による聞き取り内容である場合は、調査項目欄にその旨を記す。

【発言者の属性や調査項目と語りを紐づけた整理表の例】

調査対象の年齢	調査対象が利用する居場所	調査項目	子どもや若者の語り (実際の発言内容を意味ごとのまとまりに分割)
16歳	●●ハウス	居場所における活動内容 (支援者による聞き取り)	ひとりでぼーっとするのが好き。
16歳	●●ハウス	居場所における活動内容 (支援者による聞き取り)	学校だと、グループの空気を読まなきゃいけないけど、ここにはヒエラルキーがなくて楽。
16歳	●●ハウス	居場所における活動内容 (支援者による聞き取り)	自由にやれるし。
9歳	××クラブ	居場所の利用前後での変化	ここに来るまでは、木登りとかしたことなかった。登っちゃだめって言われてたから。
9歳	××クラブ	居場所の利用前後での変化	○○くん（中学生）が下から押してくれたから、（木登りははじめてだったけれど）平気だった。

ひとりでぼーっとするのが好き。学校だと、グループの空気を読まなきゃいけないけど、ここにはヒエラルキーがなくて楽。自由にやれるし。



ここに来るまでは、木登りとかしたことなかった。登っちゃだめって言われてたから。○○くん（中学生）が下から押してくれたから、（木登りははじめてだったけれど）平気だった。



6. 調査結果の分析（続）

【分析手順Ⅱ】

1. こどもや若者へのヒアリングがすべて終了した段階で、整理表（P.7参照）から、こどもや若者の語りを切り離す。
2. 意味ごとのまとまりから、居場所に必要な視点や理念につながるポイントを抽出する。

こどもや若者の語り (実際の発言内容を意味ごとのまとまりに分割)	居場所に必要な視点や理念に つながるポイント
• ひとりでぼーっとするのが好き。	• ひとりで居られて、なにもしなくて良い。
• 学校だと、グループの空気を読まなきゃいけないしんどいけど、ここにはヒエラルキーがなくて楽。	• 同調圧力がない。
• 自由にやれるし。	• 過ごし方を自由に選べる。
• ここに来るまでは、木登りとかしたことがなかった。登っちゃだめって言われてたから。	• 遊びを禁止されない。
• ○○くん（中学生）が下から押してくれたから、 (木登りははじめてだったけれど) 平気だった。	• 大人以外の、少し年上の存在と関われる。

7. こどもや若者へのヒアリングにおける倫理的な配慮

- こどもや若者を対象とした社会学系の調査に関する研究倫理規定等について、統一的な基準や具体的な指針が見当たらないため¹、こどもを対象とした先行研究における倫理的配慮を参考にして、本調査における倫理的配慮を検討した。

項目	倫理的配慮に関連する項目 ²	本調査における配慮 ^{1,3}
分かりやすい説明	<ul style="list-style-type: none"> 研究の依頼文書には、研究目的、調査方法などを年齢に応じてわかりやすく説明しましょう。(P.9) 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校低学年の場合は、ひらがなを基本とし、小学校高学年以上の場合は、漢字を使用する。(2種類の資料を用意) こどもが使う平易な単語を使用する。
匿名性を確保	<ul style="list-style-type: none"> 回収を他者に依頼する場合、回収する人に誰が回答したのか知られない方法をとしましょう。(P.9) 無記名であっても複数の情報により個人が特定できる可能性があることを踏まえ、十分な配慮をしましょう。(P.9) 	<ul style="list-style-type: none"> こどもや若者の個人データは収集しない。 協力先の居場所に関する情報は非公開とし、協力したこどもや若者が特定されないようにする。
分量を調整	<ul style="list-style-type: none"> 質問に答えることができる集中力やその集中力の持続時間などを考慮しましょう。(P.9) 	<ul style="list-style-type: none"> 30分程度を基本とする。 こどもの年齢や、発達段階により、ヒアリング時間を柔軟に変更する。
同意を取得 (同意を強要しない)	<ul style="list-style-type: none"> 同意は、家族(代諾者)が研究協力をするか否かを考える時間を設け、自由意思を尊重します。(P.10、P.13) 同意は、可能な限りこどもや家族(代諾者)が研究協力をするか否かを考える時間を設け、自由意思を尊重します。(P.15) 	<ul style="list-style-type: none"> 目的、方法、内容、かかる時間、結果の取扱い、回答の自由、回答することで不利益を被らないことを、居場所のスタッフ等から、こども本人に説明してもらい、同意を取得する。

1 エム・アール・アイリサーチアソシエイツ株式会社『社会福祉推進事業 こどもの学習支援事業の評価指標の運用に関する調査研究事業 報告書』(2019)

2 日本小児看護学会『こどもを対象とする看護研究に関する倫理指針』(2015)より抜粋。括弧内に該当するページ数を記載。

3 上記1における倫理的配慮の検討内容を参照し、本調査における配慮を検討した。

7. こどもや若者へのヒアリングにおける倫理的な配慮（続）

項目	倫理的配慮に関連する項目 ²	本調査における配慮 ^{1,3}
インフォームド・アセント	<ul style="list-style-type: none"> 研究者の立場；こどもにわかる言葉で自己紹介します。 研究の目的；「研究って何をやるの？」「何のために研究するの？」など理解度にあわせ説明します。 具体的内容；「研究でこども自身に何が起るの？」「具体的にはどうすればよいの？」など説明します。 手順や時間；研究の手順やどの位時間や回数がかかるのかなどを具体的に説明します。 予測される利益とリスク；利益や起るかもしれないリスクについて必要時説明します。 任意性の保証；研究協力はこども自身の正直な気持ちで決めて欲しいこと、しなくても治療やケアなどに何も影響はないことを説明します。 研究協力の撤回；研究の途中で気持ちが変わったらやめることができること、その場合は教えて欲しいことを説明します。 連絡方法など 研究についての疑問や質問などがある場合に、連絡ができるように問い合わせ先などの情報を提供します。（上記全てP.6） 	<ul style="list-style-type: none"> 目的、方法、内容、かかる時間、結果の取扱い、回答の自由、回答することで不利益を被らないことを、居場所のスタッフ等から、こども本人に説明してもらい、同意を取得する。 上記について、調査説明資料としてまとめ、居場所のスタッフ等へ事前に配布する。 回答は、後日いくらでも撤回できることを、事前に伝える。 <p>※ヒアリングした内容をもとに作成する「居場所の基本的な視点や理念案」について、再度、居場所の運営スタッフ等を介して、こどもや若者から意見をもらう機会があることを伝える。</p>
設問方法を工夫	<ul style="list-style-type: none"> 誘導的な質問項目がないか気をつけましょう。（P.7） データ収集方法（参加観察法・面接法・介入法・質問紙調査法など）に関する知識及び技術を習得した上で、こどもの状況を的確に捉え、辛い体験にならないように倫理的配慮を行い、データ収集を進めていきます。（P.7） 	<ul style="list-style-type: none"> こどもの年齢や発達段階、個々の性格によって、質問方法を柔軟に変更し、オープンクエスチョンだけでなく、選択肢を提示する。 こどもや若者にとって話づらい可能性のある調査内容は、居場所の運営スタッフ等から聞き取る。

1 エム・アール・アイリサーチアソシエイツ株式会社『社会福祉推進事業 こどもの学習支援事業の評価指標の運用に関する調査研究事業 報告書』（2019）

2 日本小児看護学会『こどもを対象とする看護研究に関する倫理指針』（2015）より抜粋。括弧内に該当するページ数を記載。

3 上記1における倫理的配慮の検討内容を参照し、本調査における配慮を検討した。

7. こどもや若者へのヒアリングにおける倫理的な配慮（続）

項目	倫理的配慮に関連する項目 ²	本調査における配慮 ^{1,3}
設問方法を工夫	<ul style="list-style-type: none"> 低学年のこどもに実際の出来事を問う場合は、研究者がそばにいて説明するなどの方法をとみましょう。こどもへの負担を観察しながら配慮することができます。（P.9） 	<ul style="list-style-type: none"> ヒアリング実施者を、居場所の運営スタッフ等に依頼し、研究者は同席する形を基本とする。
	<ul style="list-style-type: none"> 研究協力者が希望する場合、親等の同席のもと行うことを検討しましょう。（P.7） 	
	<ul style="list-style-type: none"> 負担を表す反応（疲労や不安を疑う表情、または行動など）が見られた場合（P.8） 	<ul style="list-style-type: none"> 中断したい場合は中断して良いことを、こどもや若者本人からの同意取得の段階で、居場所の運営スタッフ等から、こどもや若者に伝えてもらう。
	<ul style="list-style-type: none"> 研究の依頼時に協力の意向があった研究協力者から途中で中止の申し出があった場合は、研究協力者の意思を尊重して研究を中止すること、中止したことによって今後の治療・ケアなどに影響がないことを説明しましょう。（P.8） 	

1 エム・アール・アイリサーチアソシエイツ株式会社『社会福祉推進事業 こどもの学習支援事業の評価指標の運用に関する調査研究事業 報告書』（2019）

2 日本小児看護学会『こどもを対象とする看護研究に関する倫理指針』（2015）より抜粋。括弧内に該当するページ数を記載。

3 上記1における倫理的配慮の検討内容を参照し、本調査における配慮を検討した。

7. こどもや若者へのヒアリングにおける倫理的な配慮（続）

- 困難を抱えるこどもや若者においては、保護者との関係性が良くない場合や、保護者との連絡が取りづらい場合も想定される。保護者の申込等を必要としない居場所も多い。そのため、保護者からの同意取得を前提にすると、ヒアリング対象者が限定される。
- 「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針ガイダンス」¹（p.122～123）では、代諾者等からのインフォームド・コンセントを受ける場合の手続き等について、以下のように記載がある。

<p>研究対象者の要件に関して</p>	<p>研究対象者が次に掲げるいずれかに該当していること <u>（ア）未成年者であること。ただし、研究対象者が中学校等の課程を修了している又は16歳以上の未成年者であり、かつ、研究を実施されることに関する十分な判断能力を有すると判断される場合であって、次に掲げる全ての事項が研究計画書に記載され、当該研究の実施について倫理審査委員会の意見を聴き、研究機関の長の許可を受けたときは、代諾者ではなく当該研究対象者からインフォームド・コンセントを受けるものとする。</u></p>
<p>代諾者の選定に関して</p>	<p>2 (1)ア①の「代諾者等の選定方針」については、一般的には、次の①から③に掲げる者の中から、代諾者等を選定することを基本とする。</p> <p>①（研究対象者が未成年者である場合）親権者又は未成年後見人 ②研究対象者の配偶者、父母、兄弟姉妹、子・孫、祖父母、同居の親族又はそれら近親者に準ずると考えられる者（未成年者を除く。） ③研究対象者の代理人（代理権を付与された任意後見人を含む。）</p> <p>ただし、画一的に選定するのではなく、<u>個々の研究対象者における状況、例えば、研対象者とのパートナー関係や信頼関係等の精神的な共同関係のほか、場合によっては研究対象者に対する虐待の可能性等も考慮した上で、研究対象者の意思及び利益を代弁できると考えられる者が選定されることが望ましい。</u>また、代諾者等からインフォームド・コンセントを受けたときは、当該者と研究対象者との関係を示す記録を残すことも重要である。</p>

- そのため、本調査では、以下の対応としてはどうか。
 - 16歳以上：こどもや若者本人から同意を取得する。
 - 16歳未満：保護者又は居場所の運営スタッフ等から同意を取得するとともに、こどもや若者本人から同意を取得する。
 （居場所の運営スタッフ等により、こどもや若者と保護者との関係性により、保護者からの同意を取得することが困難と判断された場合には、居場所の運営スタッフ等が代諾者となる。）

8. 居場所の基本的な視点や理念（求められる要素）

- 【キーワード+具体的な内容や選定理由の説明文】の形で、ワード資料3～4頁程度でとりまとめることを想定。
- こどもや若者、居場所を取り巻く課題や、その他の論点等は、報告書の考察部分において、別途整理することを想定。

（とりまとめのイメージ ※資料2 関係団体へのヒアリング結果概要より抜粋・再掲）

- こどもや若者が主体であること。
 - 周りの大人が余計なことをしない。大人は手も口も極力出さないことが重要。○○○○。
 - ○○○○。
- こどもや若者が自己表現できること。
 - こどもや若者が自分の想いや気持ちを表現できる場が必要。○○○○。（30万人以上・こども食堂を含む複数の居場所・小中高生）
 - ○○○○。
- こどもや若者が自己肯定感を抱ける、自分の存在感を高められること。
 - 学校等では、短所ばかり指摘され、改善を求められる。その結果、孤立していくこどもも多い。こどもの居場所では、こどもの持ち味（長所、得意）に、光を当てることで、そのこどもの存在感を高めることが大切である。○○○○。
 - ○○○○。
- こどもや若者がやりたいことをできる場であること。
 - 学童に息苦しさを感じるこどもも多い。こどもにとって、居ないといけな場になっている。放課後は、学校から解放された時間であるべきで、居場所では何からも解放されることが重要。○○○○。
- 同じ悩みを持つ仲間とつながれること。
 - ○○○○。